マテリアリティ（重要課題）

当社グループは、地球環境の保護や人権の尊重、多様性への対応など、サステナビリティへの取り組みは企業が担うべき重要な社会的責任と考えており、今後、企業が存続していくためには、環境・社会・経済の視点で、課題解決に向けた事業活動に取り組み、ステークホルダーからの信頼を獲得しつつ、長期的な成長をめざすことが必要になると考えています。

その上で、優先的に取り組むべきテーマとして、以下の6つのマテリアリティを特定しています。

近年における温暖化による気候変動、人口増加、都市化、資源不足といった地球規模のメガトレンドを背景に、私たちの生活や社会環境はグローバルに大きく変化しており、企業には、脱炭素社会の推進や循環型経済の構築など、多くの課題解決に向けた取り組みが求められています。

当社グループにおいては、マテリアリティを適切に認識した上で、課題解決に向けた実効性のある経営、事業活動に取り組んでいます。

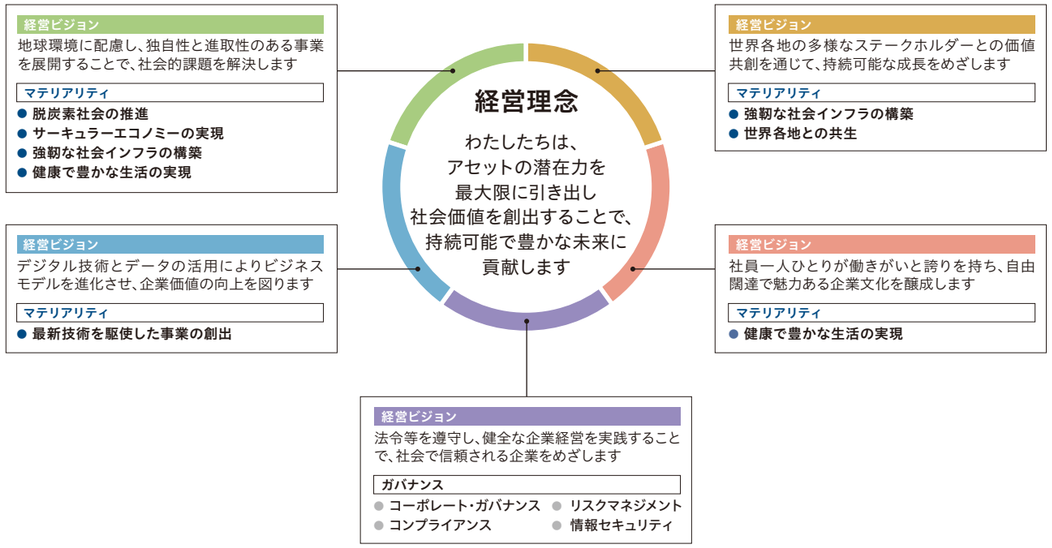
当社グループのマテリアリティ

マテリアリティ	重要性が高いと考える背景	SDGsとの関係
脱炭素社会の推進	●脱炭素社会の実現に向けた取り組みは、喫緊の課題として世界的に認知されており、再生可能エネルギー投資、EV化の促進などの成長・有力分野における当社グループの貢献の余地は大きい。 ●この社会的課題の解決に逆行する取り組みの峻別などは事業面における影響も大きく、重要性が高い。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を
サーキュラーエコノミーの実現	●自社ならびに社会における廃棄を減らすこと、アセットの新たな価値を最大限に活用し循環型社会に貢献することは、リース業界のリーディングカンパニーとして、その重要性が高い。 ●パートナーとの連携を強化することで、持続可能で豊かな社会の実現に貢献できる。	6 安全な水とトイレを世界中に 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
強靭な社会インフラの構築	●修繕期や再構築期を迎えている国内インフラの整備や、さまざまなパートナーと協業する海外のインフラ支援の積極的な展開、スマートシティの構築は、多くの機会を有する領域。 ●企業間の連携を支援する仕組みの構築、サービスの提供により、その事業の多様化や高度化、効率化に貢献できる。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
健康で豊かな生活の実現	●当社グループを取り巻く多くのステークホルダーの健康および安全・安心・文化的な生活の保全に関わるサービスの創出と提供は、豊かな未来の実現に向けて重要性が高い。 ●企業活動における価値と信頼の源泉は人材であり、社員のモチベーション向上、優秀な人材の獲得などもその意義は大きい。	3 すべての人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も
最新技術を駆使した事業の創出	●お客さまのDX推進におけるファイナンスニーズを捉え、自社のテクノロジーやデジタル技術の利活用によりその解決を図ることで新たな事業モデルの開発を促進する。 ●代替エネルギーの利活用にともなうサプライチェーン構築も含めて、多様性と新規性を兼ね備えた事業創出の機会として重要性が高い。	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
世界各地との共生	●国や地域により抱えている社会的課題は異なることから、地域密着で独自のニーズを捉え、各国・地域のパートナーとの協業などをもってその解決を図ることの意義は大きい。 ●当社グループの総合力を発揮することで、ともに成長する社会を実現できる。	8 働きがいも経済成長も 17 パートナーシップで目標を達成しよう

マテリアリティと経営理念・経営ビジョンの関係性（サステナビリティの基本方針）

グローバルに多くのステークホルダーとのつながりを構築している当社グループには、社会的課題の解決に貢献できる大きなポテンシャルがあります。その上で、お客さまやパートナー企業とともに社会価値を創出し、持続可能で豊かな未来に貢献していくことを当社グループのありたい姿として「経営理念」において掲げ、それを実現するためにめざすべきものとして「経営ビジョン」を定めています。この経営理念、経営ビジョン、さらには、特定したマテリアリティを一体とした姿勢こそが、当社グループの「サステナビリティの基本方針」です。

マテリアリティと経営理念・経営ビジョンの関係性



マテリアリティ特定のプロセス

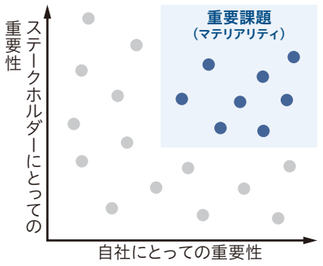
1. 自社視点での「重要なESG課題」の検討

ISO26000、SDGs(Sustainable Development Goals)ほか、関連する国際ガイドラインや原則などに基づき、ESG課題の網羅的なリストアップを実施。その後、従業員を対象としたアンケートと社内インタビューを行い、当社グループの事業に関わる機会とリスクの両面からその重要度を踏まえて、候補を抽出。

2. 外部ステークホルダー視点での「重要なESG課題」の検討

主要顧客・株主などの外部ステークホルダーへのインタビューで得た知見や意見から、当社グループへの期待や要請を確認し、候補の絞り込みを実施。

3. マネジメントによる討議・審議

経営理念、経営ビジョン、SDGsとの関係性を整理し、各事業との関連性などを踏まえ、サステナビリティ委員会、経営会議、取締役会における議論を経て特定。

マテリアリティ特定イメージ